

◎ 教育勅語

朕^{ちん}惟^{おも}フニ^{とく}徳^{ちゆう}忠^{ちゆう}ニ^ふ我^わヲ^{しん}樹^{しん}ク^くニ^く克^くク^く孝^{こう}セ^{そう}ル^{そう}コ^くト^く深^{しん}厚^{こう}ナ^はリ^は我^わニ^くシ^くテ^くノ^くス^く和^わニ^く啓^{けい}セ^{せい}ム^む世^{せい}務^む旦^{たん}旦^{たん}窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 宏^{こう}遠^{えん}ク^く所^{しよ}ニ^ふ美^みテ^て教^{きやう}育^{いく}ノ^く淵^{えん}源^{げん}亦^{また}實^{じつ}ニ^く此^こニ^く存^{ぞん}ス^く和^わニ^く啓^{けい}セ^{せい}ム^む世^{せい}務^む旦^{たん}旦^{たん}窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 民^{みん}克^くク^く所^{しよ}ニ^ふ美^みテ^て教^{きやう}育^{いく}ノ^く淵^{えん}源^{げん}亦^{また}實^{じつ}ニ^く此^こニ^く存^{ぞん}ス^く和^わニ^く啓^{けい}セ^{せい}ム^む世^{せい}務^む旦^{たん}旦^{たん}窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 世^{せい}精^{せい}華^かニ^ふ美^みテ^て教^{きやう}育^{いく}ノ^く淵^{えん}源^{げん}亦^{また}實^{じつ}ニ^く此^こニ^く存^{ぞん}ス^く和^わニ^く啓^{けい}セ^{せい}ム^む世^{せい}務^む旦^{たん}旦^{たん}窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 爾^{なんじ}臣^{しん}民^{みん}父^ふ母^ぼニ^く孝^{こう}ニ^く兄^{けい}弟^{てい}ニ^く友^{ゆう}ニ^く夫^{ふう}婦^{ふう}相^{あい}和^わニ^く啓^{けい}セ^{せい}ム^む世^{せい}務^む旦^{たん}旦^{たん}窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 シ^し朋^{ほう}友^{ゆう}相^{あい}信^{しん}シ^し恭^{きやう}儉^{けん}己^{おのれ}レ^くヲ^く持^じシ^し博^{はく}愛^{あい}衆^{しゆう}ニ^く啓^{けい}セ^{せい}ム^む世^{せい}務^む旦^{たん}旦^{たん}窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 及^{およ}ホ^しシ^し學^{がく}ヲ^く修^{しゆ}メ^く業^{ぎやう}ヲ^く習^{なら}ヒ^く以^{もつ}テ^く智^ち能^{のう}ヲ^く啓^{けい}セ^{せい}ム^む世^{せい}務^む旦^{たん}旦^{たん}窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 發^{はつ}シ^し徳^{とく}器^きヲ^く成^{じやう}就^{じゆ}シ^し進^{すす}テ^く公^{こう}益^{えき}ヲ^く廣^{ひろ}メ^く世^{せい}務^む旦^{たん}旦^{たん}窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 ヲ^{ひら}開^{ひら}キ^く常^{つね}ニ^く國^{こく}憲^{けん}ヲ^く重^{おも}シ^く國^{こく}法^{ほう}ニ^く遵^{したが}ヒ^く一^{いつ}旦^{たん}窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 緩^{かん}急^{きゆう}ア^くレ^くハ^く義^ぎ勇^{ゆう}公^{こう}ニ^く奉^{ほう}シ^く以^{もつ}テ^く天^{てん}壤^{じやう}無^む窮^{きゆう}朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 ノ^{こう}皇^{うん}運^ふヲ^く扶^ふ翼^{よく}ス^くヘ^くシ^く是^{かく}ノ^く如^{ごと}キ^くハ^く獨^{ひと}リ^く朕^{ちん}爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 力^{ちゆう}忠^{うりやう}良^{しん}ノ^く臣^{しん}民^{みん}タ^くル^くノ^くミ^くナ^くラ^くス^く又^{また}以^{もつ}テ^く爾^{なんじ}シ^しテ^て古^こ悖^{はい}其^{その}
 祖^そ先^{せん}ノ^く遺^い風^{ふう}ヲ^く顕^{けん}彰^{しやう}ス^くル^くニ^く足^たラ^くン^く
 斯^こノ^く道^{みち}ハ^く實^{じつ}ニ^く我^わ力^{りき}皇^{こう}祖^そ皇^{こう}宗^{そう}ノ^く遺^い訓^{くん}ニ^くシ^く
 テ^し子^{そん}孫^{しん}臣^{しん}民^{みん}ノ^く俱^{とも}ニ^く遵^{じゆん}守^{しゆ}ス^くヘ^くキ^く所^{ところ}之^{これ}ヲ^く古^こ悖^{はい}其^{その}
 今^{こん}ニ^く通^{つう}シ^くテ^く謬^{あやま}ラ^くス^く之^{これ}ヲ^く中^{ちゆう}外^がニ^く施^ほシ^くテ^く威^い其^{その}
 ラ^{ちん}ス^{なんじ}朕^{しん}爾^{みん}臣^{しん}民^{みん}ト^く俱^{とも}ニ^く拳^{けん}拳^{けん}服^{ふく}膺^{よう}シ^くテ^く威^い其^{その}
 徳^{とく}ヲ^い一^くニ^くセ^くン^くコ^くト^くヲ^く庶^{こい}幾^{ねが}フ^く

明治二十三年十月三十日

御名

御璽

◎ 教育勅語（意訳・口語文）

国民の皆さん、私たちの祖先は、国を建て始めた時から、道義道徳を大切にする。という大きな理想を掲げてきました。そして、全国民が、国家と家庭のために心を合わせて力を尽し、今日に至るまで見事な成果をあげてくることができたのは、我が日本のすぐれた国柄のおかげであり、また我が国の教育の基づくところも、ここにあるのだと思います。

国民の皆さん、あなたを生み育ててくださった両親に、「お父さんお母さんありがとうございます」と、感謝しましょう。兄弟のいる人は、「一緒にしっかりやろうよ」と、仲良く励ましあいましょう。縁あって結ばれた夫婦は、「二人で助けあっていこう」と、いつまでも協力しあいましょう。学校などで交わりをもつ友達とは、「お互い、わかっているよね」と、信じあえるようになりましょう。また、もし間違ったことを言ったり行ったりした時は、すぐ「ごめんなさい。よく考えてみます」と自ら反省して、謙虚にやりなおしましょう。どんなことでも自分ひとりではできないのですから、いつも思いやりの心をもって「みんなにやさしくします」と、博愛の和を広げましょう。誰でも自分の能力と人格を高めるために学業や鍛錬をするのですから、「進んで勉強し努力します」という意気込みで、知徳を磨きましょう。さらに、一人前の実力を養ったら、それを活かせる職業に就き、「喜んでお手伝いします」という気持ちで公＝世のため人のため働きましょう。普段は国家の秩序を保つために必要な憲法や法

律を尊重し、「約束は必ず守ります」と心に誓って、ルールに従いましょう。もし国家の平和と国民の安全が危機に陥るような非常事態に直面したら、愛する祖国や同胞を守るために、それぞれの立場で「勇気を出してがんばります」と覚悟を決め、力を尽くしましょう。いま述べたようなことは、善良な日本国民として不可欠の心得であると共に、その実践に努めるならば、皆さんの祖先たちが昔から守り伝えてきた日本的な美徳を継承することにもなりましょう。

このような日本人の歩むべき道は、わが皇室の祖先たちが守り伝えてきた教訓とも同じなのです。かような皇室にとっても国民にとっても「いいもの」は、日本の伝統ですから、いつまでも「大事にしていきます」と心がけて、守り通しましょう。この伝統的な人の道は、昔から今も変わることはない、また海外でも十分通用する普遍的な真理にほかなりません。そこで、私自身も、国民の皆さんと一緒に、これらの教えを一生大事に守って高い徳性を保ち続けるため、ここで皆さんに「まず、自分でやってみます」と明言することにより、その実践に努めて手本を示したいと思います。

明治 23 年 10 月 30 日

天皇の署名と印

(明治神宮崇敬会刊「たいせつなこと」より)